

学位論文審査の結果の要旨

AUNG ZAW OO

本研究は、ベトナムとミャンマーの山間・丘陵地帯にある水系が連鎖した水田において、土壌特性、イネの生育およびメタンガス放出量がどのような空間変動を有するかについて検討したものである。本研究の結果、灌漑水流入口からの距離により、土性および土壌の全窒素および全炭素含有率が変化していることが明らかになった。ベトナムでは、最下流部の水田におけるイネ収量が最も高く、下流部に蓄積した粘土と全窒素の影響が強く表れた。一方、ミャンマーでは灌漑水に近い水田の方が高い収量を示した。メタンガス放出量はベトナムでは最下流部で最も低い値となったが、ミャンマーでは圃場間をつなぐ中央部で高い値となった。これらの空間変動には、上流部の土地利用の違い、傾斜および灌漑水の流量の違いが影響していると考えられた。施肥窒素量、メタンガス放出量、収量、粗収入の解析により、それぞれの地点の生態系・経済性のバランス（エコバランス）に適した管理方法が提案された。

以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。